

国際交流2022

～令和4年国際交流報告書～

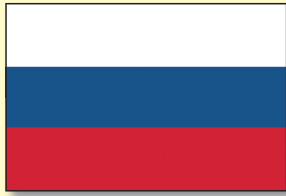
International Exchange
MAIZURU 2022



目 次

姉妹都市・ナホトカ市の概要	P 3
友好都市・大連市の概要	P 4
姉妹都市・ポーツマス市の概要	P 5
その他の交流がある国・都市	P 6
京都舞鶴港と対岸諸港を結ぶ国際航路図	P 7
大連市との交流	P 8
ウズベキスタン共和国との交流	P 9
インバウンド誘致事業	P 14
その他国際交流	P 15
舞鶴市国際交流員としての5年間	P 18
外務省勤務録 ～4年間の派遣を終えて～	
みなと振興・国際交流課 足立 健太	P 20
各種ホームページの紹介	P 23

※氏名の記載については、敬称を省略させていただき、職名や組織名等は当時のものとさせていただきます。



姉妹都市

ナホトカ市 (ロシア連邦) Nakhodka



姉妹都市提携年月日

1961 (昭和36) 年6月21日



ナホトカ市の概要

ナホトカ市はロシア連邦沿海地方の南東部に位置し、面積約325.9Km²、人口約14万人(2021年現在)を有する都市です。19世紀半ば過ぎにロシアの軍艦「アメリカ号」が偶然発見したのが都市の起源であり、「ナホトカ」には、ロシア語で「見つけもの」の意味があります。日本との時差は+1時間。

産業：舞鶴と同じ天然の良港を有する国際港湾都市で、主な産業は、海上輸送、漁業、石油製品卸、建設業、商業です。また、シベリア鉄道の東端に位置しているため、遠くロシア西部やヨーロッパをも後背地とする重要な物流港です。

気候：モンスーン型気候で1月の平均気温は-13℃、8月の平均気温は18℃、年間降水量は740mm。

その他の姉妹都市：敦賀市・小樽市(日本)、吉林市(中国)、東海市(韓国)、オークランド市・ベリンガム市(アメリカ)、ブーケット州(タイ)



ナホトカ市庁舎



ナホトカ市との交流

1956年日ソ共同宣言の調印により、舞鶴市では引揚者の乗船港としても縁の深いナホトカ市と貿易で友好を深め、日ソ両国の友好強化に寄与しようという機運が高まり、1956年に舞鶴市議会において、ナホトカ市に対する友好決議が行われました。1961年6月、ドウボフカ・ナホトカ市長を舞鶴市に迎え、日本とソビエト連邦(当時)との間で初めてとなる姉妹都市提携が実現しました。以来今日まで、両市の間では「日本海を平和と友情の海に」を合言葉に、スポーツ交流団の相互派遣、少年使節団の交換、通信体育競技会の実施など活発な交流が展開され、2021年には、姉妹都市提携60周年を迎えました。



舞鶴市・ナホトカ市友好の碑



ナホトカ商業港



カザンスキー教会



友好都市 大 連 市 (中国) Dalian



友好都市提携年月日

1982 (昭和57) 年5月8日



大連市の概要

大連市は中国東北部遼東半島最南端に位置し(緯度は日本の山形県酒田市とほぼ同じ)、東は黄海、西は渤海、南に海を隔てて山東半島を望む港湾工業都市です。人口603万6千人(2021年現在)、面積約12,574Km²。1899年にロシア人が大連港の建設を開始したのが都市としての始まりです。日本との時差は-1時間。

産業: 古くから造船・石油化学など重工業の拠点でしたが、改革開放後、東北地方においていち早く市場経済化に取り組みました。90年代からは日系を中心とする外資系製造業の誘致に成功し、近年は海外IT企業の進出も目覚ましく、環境技術の導入にも力を入れています。一方、観光産業における発展も目覚ましく、「アカシア祭り」「国際ビーチ祭り」「国際ビール祭り」「国際マラソン大会」など季節ごとにイベントが開催され、多くの外国人観光客で賑わっています。

気候: 暖温帯大陸性モンスーン気候で、四季がはっきりしています。1月の平均気温は-3.9℃、8月の平均気温は24.1℃、年間降水量は550~950mm。

その他の友好都市: 北九州市(日本)、ブレーメン市・ロストック市(ドイツ)、グラスゴー市(イギリス)、ル・アーヴル市(フランス)、オークランド市(アメリカ)、ウラジオストク市(ロシア)、ポワントノワール市(コンゴ共和国)、エンスヘーデ市(オランダ)



大連市人民政府庁舎



大連市との交流

舞鶴市では、地理的な条件や引き揚げ等の歴史的な経過から、大連市(当時旅大市)との友好交流を望む市民の声が強くありました。1978年の日中平和友好条約の締結により、舞鶴市としても友好都市提携実現に向け、関係機関への働きかけや経済・貿易関係の交流を積極的に展開した結果、1982年5月、舞鶴市において崔栄漢・大連市長(当時)を迎え、友好都市提携が実現しました。以来今日まで、両市の間では各種訪問団の相互派遣、少年使節団の交換、友好の船の派遣など活発な交流が展開され、2022年には、友好都市提携40周年を迎えました。



白玉山からの旅順港の眺め



中山広場



大連の海鮮料理



姉妹都市 ポーツマス市 (英国) Portsmouth



姉妹都市提携年月日

1998 (平成10) 年5月15日・27日



ポーツマス市の概要

ポーツマス市は英国南部のイギリス海峡に面した港湾観光都市です。人口約20万8千人(2022年6月現在)、面積約40Km²。ロンドンの南西部110kmに位置し、1927年に市制を施行しましたが、ポーツマス市の起源は1194年にリチャード1世の憲章にはじまり、800年余の古い歴史を持ちます。日本との時差は-9時間。



ポーツマス・ギルドホール

産業：英国海軍の主要基地として発展してきた町で、現在、海軍基地はポーツマス・ヒストリック・ドックヤードと呼ばれる観光施設として利用され、当時の軍艦等が保存されています。多くの博物館や観光施設を有する、英国のみならずヨーロッパでも有数のリゾート地として知られています。近年では、港湾地区の再開発が進められ、複合レジャー施設「ガンワフ・キーズ」は多くの人でにぎわいを見せている。

気候：北部を丘陵地帯に守られ、イギリス海峡の湾流の影響もあり、温暖な気候に恵まれています。平均気温は夏で18～25℃、冬で5～12℃ほどです。

その他の姉妹都市：カーン市(フランス)、デュースブルク市(ドイツ)、ハイファ市(イスラエル)、ポーツマス3市(アメリカ・ニューハンプシャー州、バージニア州、ロードアイランド州)、シドニー市(オーストラリア)、珠海市・湛江市(中国)、シレット市(バングラデシュ)、フォークランド諸島(英国領)、ハリファックス市(カナダ)



ポーツマス市との交流

舞鶴市とポーツマス市は、1993年赤れんが博物館の開館時にポーツマス市かられんがが贈られたことをきっかけに交流が始まりました。その後、小中学校の手紙の交換やボーイスカウトの交流など市民レベルでの交流が進み、1998年5月に舞鶴市・ポーツマス市の市長が両市を相互訪問し、姉妹都市提携が実現しました。2018年には、姉妹都市提携20周年を迎えました。



スピナーカタワー



ビクトリー号



ガンワフ キーズ

その他の交流がある国・都市



浦項市 (大韓民国) Pohang



浦項市の概要

浦項市は、韓国・慶尚北道の東海岸に位置する、人口約51万9千人(2022年12月現在)、市の面積約1,129Km²の国際港湾都市で



韓国で一番最初に日が昇る地として有名な「ホミゴッ」

す。古くから水産業で栄えたまちでしたが、1970年代初頭に「浦項製鉄所 (POSCO)」が誕生して以来、韓国有数の工業都市として発展してきました。浦項港では、鉄鋼関係の輸出入が大半を占めます。2014年にKTX(韓国版新幹線)が開通し、首都ソウルから約2時間半でアクセスできるようになりました。



浦項市との交流

2011年7月に、京都府とともに「経済交流等の推進に関する協定書」を締結後、本格的に交流を開始しました。2011年11月に、京都舞鶴港が国から3つの機能(国際海上コンテナ、国際フェリー・RORO船、外航クルーズ)で「日本海側拠点港」の選定を受けて以来、国際フェリー航路の開設に向けた取り組みを実施。現在、舞鶴市では浦項市と中学生の相互訪問など、青少年交流を進めています。



ウズベキスタン共和国 (首都：タシケント市) Republic of Uzbekistan



ウズベキスタン共和国の概要

ウズベキスタンは日本からおおよそ6,400km離れた中央アジアに位置しており、面積は日本のおおよそ1.2倍、人口は約3,440



日本人抑留者が建設に携わった「ナヴォイ劇場」

万人(2022年現在)、1991年にソビエト連邦崩壊に伴い独立した国です。世界に2つしかない「二重内陸国」の1つで、海へ出るためには2つ国を越えなければなりません。

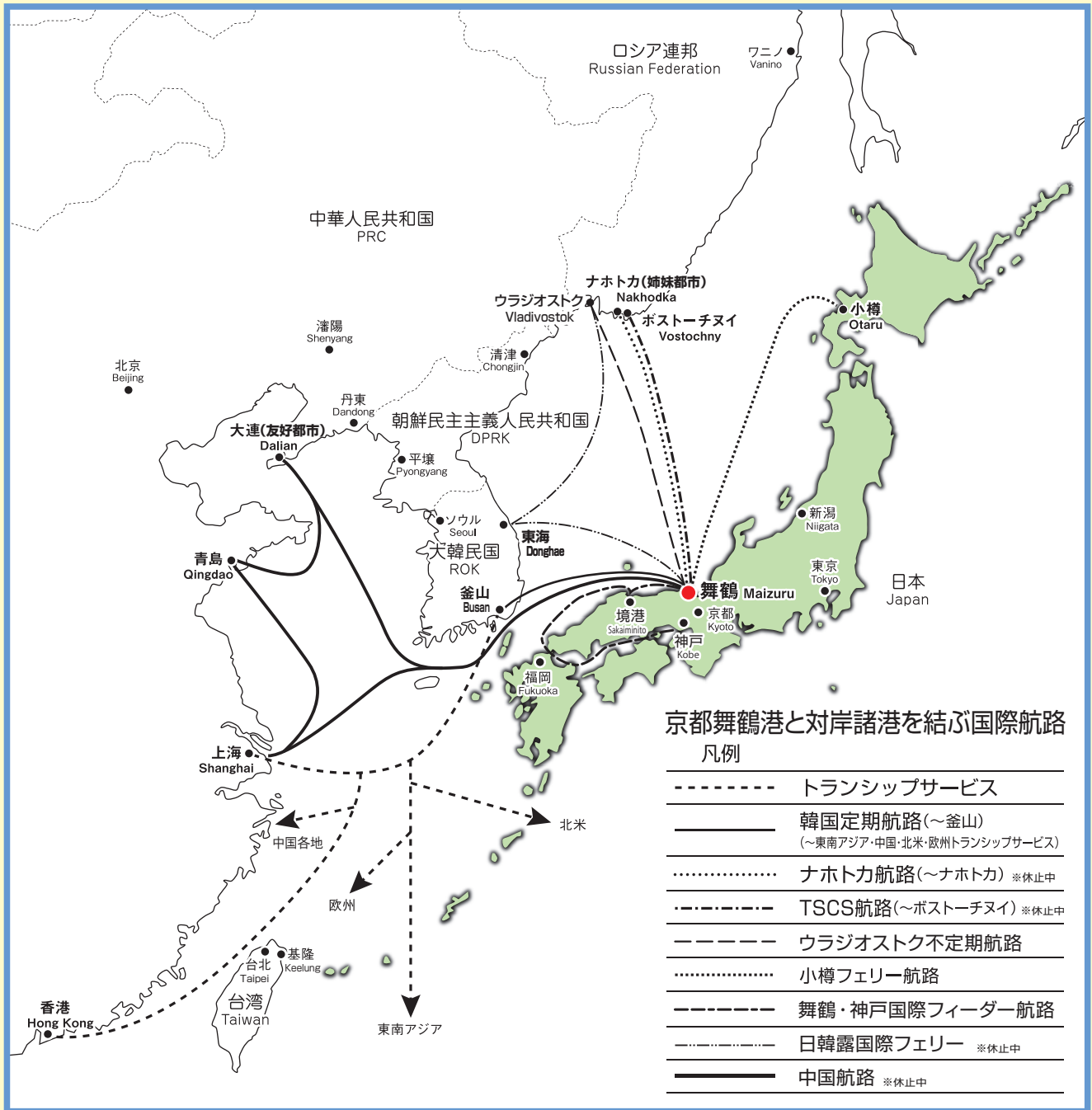


ウズベキスタン共和国との交流

2016年1月、首都タシケント市内の日本人抑留者資料館のスルタノフ・ジャリル館長が舞鶴市を訪問したことがきっかけでウズベキスタンとの交流が始まりました。その後、東京2020オリンピックにおけるウズベキスタンのホストタウンに登録され、2021年の本大会直前には、柔道代表選手団が舞鶴市で事前合宿を実施。現在、2019年にリシタン地方と交換した「人材育成交流に関する覚書」に基づき、ウズベキスタンの発展に寄与する「産業技術」「介護福祉」「農業」分野の人材育成に協力しています。



京都舞鶴港と対岸諸港を結ぶ国際航路図



大連市との交流

2022年7月16日(土)～10月16日(日)

舞鶴引揚記念館で企画展「記憶の中の大連～満州の玄関口 大連からハルピンへ～」を開催

第2次世界大戦後に日本への引揚者の出発港であった大連市。当時の街並みや友好都市としての歴史などを紹介する企画展を開催しました。

《展示概要》

大連や満州にまつわる絵画、書籍、ポストカードなど50点



展示会場(舞鶴引揚記念館)

2022年11月11日(金) 遼寧省・日本友好交流大会に参加

大連市からの依頼により、遼寧省と日本の友好関係都市との交流の一環として開催されている「日本友好交流大会」へオンラインで参加。

遼寧省から中国文化等に関する書籍40冊の寄贈があり、オンラインでの除幕式では、メッセージ動画(事前録画)も放映されました。



多々見市長によるメッセージ動画(事前録画)



遼寧省から寄贈された書籍の除幕式

2022年11月15日(火) 大連市で日中国交正常化50周年記念レセプションが開催

日中国交正常化50周年を迎えるにあたり、大連市で在瀋陽日本国総領事館在大連領事事務所主催の「日中国交正常化50周年記念レセプション」が開催されました。

レセプションでは、50年の歴史を振り返る写真展のほか、日系企業ブースや自治体ブースの出展があり、約260名の来場者で賑わいました。



50年の歴史を振り返る写真展



自治体ブースで外務省に派遣している舞鶴市職員(在大連領事事務所勤務)が舞鶴市を紹介

ウズベキスタン共和国との交流

2022年3月17日(木)～30日(水) 茶の試験栽培のための苗木輸送

舞鶴市とリシタン地方との覚書の合意事項である「茶栽培技術の普及」に関し、2021年4月からタシケント国立農業大学主導のもと実施している現地での茶の試験栽培について、栽培品種及び栽培本数を増やすため、苗木約3,000本と種子約200個をウズベキスタンに輸送しました。リシタン地方を含む試験栽培地は計13地域となりました。



《協力者》

埼玉県茶業研究所 茶業技術研究担当専門研究員
埼玉県茶業研究所 茶業技術研究担当
東京農工大学准教授
東京農工大学留学生(タシケント国立農業大学教員)

高橋 淳
後藤 高秋
川端 良子
ニザモフ・シェルゾット 他

《輸送日程》

3月17日(木)～23日(水) 東京農工大学にて茶苗木輸送準備作業
3月24日(木) 横浜植物防疫所で検疫受検及び植物検疫証明書取得
3月25日(金) 関西空港へ搬入・通関手続き
3月30日(水) タシケント空港到着

《輸送品目》

苗木 ほくめい、ふうしゅん、さやまかおり、ふくみどり、さみどり
種子 さやまかおり

2022年4月 近畿職業能力開発大学校京都校へウズベキスタン人留学生が入学

舞鶴市とリシタン地方との覚書に基づき、「産業技術人材育成」分野の交流の一環として、リシタン地方の日本語学校「Noriko学級」の生徒3名が舞鶴市に所在する近畿職業能力開発大学校京都校(生産技術科)に入学しました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う日本国政府の入国制限により、2021年4月から1年間の休学措置を取っていたところ、2022年3月からの入国制限緩和により、留学のための来日が実現しました。



近畿能開大京都校入学式にて
(左からトジボエフさん、イシモイロフさん、イギタリエフさん)

《留学生(3名)》

イギタリエフ・シャフゾッド
イシモイロフ・イザティロ
トジボエフ・ミルゾラフマット

《来日日程》

3月25日(金) 入国
3月29日(火) 大阪市(滞在先)→舞鶴市
3月31日(木) 舞鶴市長表敬訪問、
舞鶴市議会議長表敬訪問
4月 2日(土) 近畿能開大京都校入学式
4月 5日(火) 授業開始



留学生の舞鶴市長表敬訪問

ウズベキスタン共和国との交流

2022年6月6日(月)～8日(水) 「Noriko学級」ナジロフ・ガニシエル校長が来訪

フェルガナ州リシタン地方にある日本語学校「Noriko学級」のナジロフ・ガニシエル校長及びリシタンジャパンセンター関係者が来訪されました。「Noriko学級」から近畿能開大京都校へ留学中の生徒3名の激励のほか、舞鶴市長表敬訪問、介護人材交流についての協議、舞鶴高専の視察等を行いました。

また、2019年舞鶴市民ウズベキスタン訪問団を中心とした市民との交流会も行いました。

《来訪者(3名)》

Noriko学級校長

(リシタンジャパンセンター代表)

ナジロフ・ガニシエル

リシタンジャパンセンター理事

駒井 翔

リシタンジャパンセンター理事

高 寛



リシタンジャパンセンターとの協議



ナジロフ校長と舞鶴市民との交流会

2022年6月16日(木)～17日(金) フェルガナ州教育訪問団が来訪

フェルガナ州から学校教育に係る視察及び意見交換等を目的とし、フェルガナ州副知事を代表とする教育訪問団が来訪されました。舞鶴市長表敬訪問や市内小中学校の視察及び給食の試食、市教育委員会との意見交換を行いました。

《来訪者(9名)》

フェルガナ州

副知事

コシモフ・ファイズラジョン

教育局長

ドリモフ・シェルゾッド

教育部長

カシモフ・エゾスホン

ウチュコプリク区副区長

ポジロフ・シュフラット

教師育成訓練センター職員

アジモフ・ナルギザ

外国語専門学校校長

ダダジョノフ・エレオノラ

リシタン区27番小中学校副校長

ミルソリエフ・アンワルジョン

通訳

イスモイロフ・フモユンミルゾ

駐日ウズベキスタン共和国大使館

二等書記官

ナジロフ・ジキリロ



フェルガナ州教育訪問団の舞鶴市長表敬訪問



白糸中学校視察

ウズベキスタン共和国との交流

2022年7月9日(土) 海外講師特別講演「ウズベキスタンに抑留された日本人」を開催

ウズベク人でシベリア抑留について研究しているムミノフ・シェルゾットさんによる特別講演「ウズベキスタンに抑留された日本人」を舞鶴引揚記念館で開催しました。トークセッションのコーナーにはレ・アルトゥル国際交流員(CIR)がゲストとして登壇しました。

《場所》

舞鶴引揚記念館

《内容》

特別講演

「ウズベキスタンに抑留された日本人」

トークセッション

「これからの日本とウズベクの交流」

《登壇者》

講師：ムミノフ・シェルゾット

(英国イーストン・アングリア大学教授)

ゲスト：レ・アルトゥル

(舞鶴市国際交流員)

ファシリテーター：長嶺 陸

(舞鶴引揚記念館学芸員)



トークセッション「これからの日本とウズベクの交流」



登壇者のレCIR(写真左)、講師のムミノフさん(写真右)

2022年7月27日(水) 舞鶴市国際交流員(CIR) レ・アルトゥルさんが離任

2017年7月から、舞鶴市国際交流員として東京オリンピックのホストタウン交流事業やフェルガナ州リシタン地方との人材育成交流事業、舞鶴市民との交流事業を担当してきたレ・アルトゥル国際交流員が、5年間の勤務を終え離任。辞令交付及び市長への離任挨拶を行いました。

また、長年の功績が称えられ、国際交流員としては初めて、感謝状が贈られました。



感謝状を受け取るレCIR

2022年8月25日(木) 舞鶴市国際交流員(CIR) アフメドフ・アシルベクさんが着任



着任挨拶をするアフメドフCIR

舞鶴市民に対するウズベク文化の理解の促進や舞鶴市とリシタン地方との覚書に基づく交流などの橋渡し役として、16人目(ウズベク人としては2人目)の国際交流員となるフェルガナ州フルカット地方出身のアフメドフ・アシルベクさんが着任。舞鶴市長への着任挨拶を行い、抱負を述べました。

ウズベキスタン共和国との交流

2022年9月21日(水) ウズベキスタン共和国独立31周年記念レセプションに参加

アブドゥラフモノフ駐日ウズベキスタン大使夫妻主催で開催されたウズベキスタン共和国独立31周年記念レセプションに参加しました。

《参加者(4名)》

舞鶴市長	多々見良三
舞鶴市産業創造室長	小島 宏
舞鶴市みなと振興・国際交流課国際交流係長	坪内 善紀
舞鶴市国際交流員	アフメドフ・アシルベク



アブドゥラフモノフ大使との記念写真

2022年10月29日(土)～11月6日(日) ウズベキスタン共和国に茶栽培調査団を派遣

舞鶴市とリシタン地方との覚書の合意事項である「茶栽培技術の普及」に関し、2021年4月から現地で行っている試験栽培の現状を確認し栽培データを収集するとともに、農地の管理者との連絡体制を構築することを目的として、関係課職員を現地に派遣しました。

《調査団(4名)》

舞鶴市産業創造室長	小島 宏
舞鶴市みなと振興・国際交流課国際交流係長	坪内 善紀
舞鶴市みなと振興・国際交流課	久保まり乃
舞鶴市国際交流員	アフメドフ・アシルベク



タシケント国立農業大学との協議

《日 程》

10月29日(土) 大阪発、タシケント着
10月30日(日) 現地調査(カシュカダリア州シャフリザーブス)
11月 1日(火) タシケント国立農業大学との協議、現地調査(ボストンリック地区フムサン)
11月 2日(水) 現地調査(ボストンリック地区ボギストン)
11月 3日(木) 現地調査(フェルガナ州アハンガラ)
11月 4日(金) リシタン地方政府との協議、Noriko学級生徒及び保護者への説明会(留学について)
11月 5日(土) コーカンド日本人墓地視察
11月 6日(日) 現地茶マーケット調査、タシケント発
11月 7日(月) 大阪着



現地調査(苗木確認・データ収集)



農地管理者への聞き取り

ウズベキスタン共和国との交流

2022年12月8日(木)～12日(月) 「Noriko学級」生徒が来訪

舞鶴市とリシタン地方との覚書に基づき、「産業技術人材育成」分野の交流の一環として、「Noriko学級」の生徒から舞鶴市に所在する近畿職業能力開発大学校京都校を受験する希望があり、3名の訪問団を受け入れました。

《訪問団(Noriko学級生徒)》

アブディエフ・マラット

アブドゥコディロフ・テムルベック

アンバロフ・オリフホン

《受入日程》

12月 8日(木) 舞鶴市着

12月 9日(金) 近畿能開大京都校見学
舞鶴市長表敬訪問

12月10日(土) 近畿能開大京都校受験
引揚記念館見学等

12月11日(日) 京都府内視察

12月12日(月) 舞鶴市発、日本発

※受験結果： 3名全員が生産技術科を合格



「Noriko学級」生徒の舞鶴市長表敬訪問



近畿能開大京都校 入学試験会場にて

インバウンド誘致事業

2022年9月21日(水)～24日(土) VISIT JAPAN トラベル&MICEマート2022に出展

宇治・亀岡・舞鶴インバウンド連携事業として、3市の観光協会が東京ビッグサイトで開催された「VISIT JAPAN トラベル&MICEマート2022」に出展。

国外の旅行会社など16社と商談し、3市の魅力や観光コースについて紹介しました。

《訪問者(4名)》

舞鶴観光協会事務局長	吉岡 久
舞鶴市観光振興課主任	渋谷 元気
宇治市観光協会専務理事	多田 重光
亀岡市観光協会次長	相見 達也



商談会の様子



商談会場の様子

2022年12月12日(月) 食を通じた舞鶴のプロモーションを実施

外務省がインバウンド観光促進を目的に実施する「地域の魅力海外発信支援事業」を活用し、日本国内在住の中国人インフルエンサーを招聘。

インフルエンサーの「八爪(パージャオ:中国語でタコ)」さんが舞鶴湾で捕れた牡蠣やサザエなどを味わう様子や、かまぼこ作り体験の様子を撮影していただきました。

撮影した動画は、SNSの在中国日本国大使館のアカウントで配信しています。

微信(ウィーチャット)

https://mp.weixin.qq.com/s/_7AGJ_xn5E-XH1eNKINKaw



微博(ウェイボー)

<https://m.weibo.cn/detail/4877772839453358>



牡蠣の大きさに驚く八爪さん



吉原入江周辺を撮影

その他国際交流

2022年6月5日(日)～7月3日(日) 「日本語支援ボランティア養成講座」を開講

在住外国人を対象とした日本語教室の継続的な運営のため、新規日本語支援ボランティアを養成する講座を開催しました。全5回の講座に計23名が受講されました。



日本語支援ボランティア養成講座

2022年7月18日(月) 舞鶴市国際交流員(CIR)レ・アルトゥルさんとの交流会を開催



レCIRと参加者全員での記念撮影

国際交流員のレ・アルトゥルさんの帰国前最後のイベントとして、舞鶴での5年間の活動や今後の舞鶴市とウズベキスタン共和国との交流について報告するとともに、舞鶴での5年間の思い出を振り返る交流会を開催しました。

当日はこれまでレさんと交流のあった舞鶴市民39名が参加しました。

2022年8月21日(日) 舞鶴国際交流協会がまいてフェスタに出展

舞鶴国際交流協会が、市内在住外国人とともに中国・アメリカ・韓国・インドネシア・ベトナム・ウズベキスタンの6か国のお国紹介ブースをまいてフェスタに出展しました。

当日は参加者が各国の民族衣装に身を包み、会場を練り歩くファッションショーも行われました。



ウズベキスタンを紹介するブース



民族衣装ファッションショーの様子

その他国際交流

2022年10月22日(土)

舞鶴国際交流協会がJA感謝祭に「インターナショナル屋台村」を出展

舞鶴国際交流協会が、市内在住外国人とともに中国・アメリカ・インドネシア・ベトナム・フィリピン・ウズベキスタン・セルビアの7か国の料理を提供する舞鶴インターナショナル屋台村をJA感謝祭に出展しました。舞鶴では見かけることのない珍しい料理を提供し、舞鶴市民に幅広く異文化交流のすばらしさを広めました。

《提供料理》

アメリカ：ダービーパイ
インドネシア：リッソール、ダダルグリン
ウズベキスタン：サモサ
セルビア：リブリャチオルバ
中国：麻婆豆腐、炒飯
フィリピン：バム・イー
ベトナム：揚げ春巻き



参加者同士の交流の様子



セルビアのリブリャチオルバ



アメリカのダービーパイ

2022年11月11日(金)～13日(日)

舞鶴ユネスコ協会が「わたしの町のたからもの絵画展」を開催

舞鶴ユネスコ協会が、ショッピングセンターらぽーるにおいて、「世界児童絵画展」を開催しました。市内の子どもたちのほか、姉妹・友好都市である英国・ポーツマス市、中国・大連市の子どもの絵画が106点展示され、3日間で2,401人の来場がありました。

《展示作品》

わたしの町のたからもの展 (市内小中学校の作品)	26点
幼稚園・保育園・こども園園児の絵画	20点
世界の子どもの絵画	60点



ポーツマス市の絵画(2022年11月11日)



大連市の絵画(2022年11月11日)

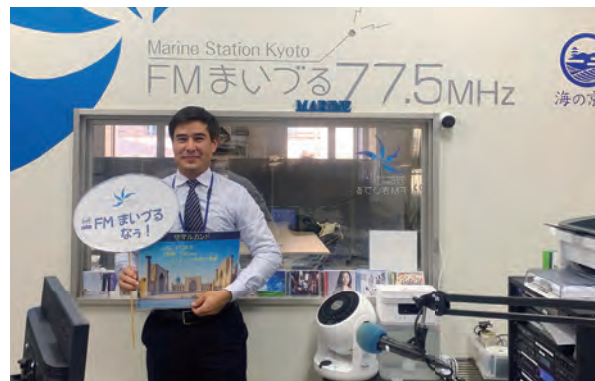
その他国際交流

2022年12月23日(金)

舞鶴市国際交流員(CIR)アフメドフ・アシルベクさんがFMまいづるに出演

国際交流員のアフメドフ・アシルベクさんが、FMまいづる「ななこちゃったラジオ」に出演し、ウズベキスタンの文化・観光、ウズベキスタンでの日本語教育事情、舞鶴市とフェルガナ州リシタン地方との交流について紹介しました。

また、12月から出前講座のメニューに追加された「ウズベキスタン講座」についての紹介もしました。



FMまいづるに出演するアフメドフCIR

(通年) 国際交流員(CIR)による出前講座を開催

異文化理解を促進するため、レ・アルトゥル国際交流員及びアフメドフ・アシルベク国際交流員による出前講座を開催しました。

ロシア語、ウズベク語での会話やウズベキスタンの歴史・文化・観光等について学習したほか、本格的なウズベキスタン料理の体験もありました。



ウズベク文化について紹介するレCIR



ウズベキスタン料理について説明するアフメドフCIR



伝統的なウズベキスタン料理(プロフ)

舞鶴市国際交流員としての5年間

2017～2021年度舞鶴市国際交流員

レ・アルトゥル



◆舞鶴市での5年間

私は2017年8月、ウズベキスタン人として初めて舞鶴市国際交流員に任命されました。光栄の至りでした。ウズベキスタンには海がないため、舞鶴の広々とした海を見て感動しました。また、舞鶴市は、私が5年近く学生生活を送っていた東京と埼玉に比べ、人間同士の距離が近く、困った時に人に声をかけやすく、ウズベキスタンの雰囲気に近いと感激しました。

舞鶴市とウズベキスタンの関係は日本人海外抑留の歴史に基づいて発展してきました。第二次世界大戦後約25,000人の日本人抑留者がウズベキスタンへ送られ、水力発電施設や劇場、学校、工場などの建設に従事し、当国のインフラ整備に大きく貢献しました。当時、勤勉な日本人の姿に感銘を受けたウズベキスタン人は、自分たちの食糧も不足しているなか、日本人抑留者たちに食べ物の差し入れをしていました。こうした戦後の海外引揚を縁として2016年に舞鶴市は2020東京五輪におけるウズベキスタン共和国のホストタウンに決定しました。

私は国際交流員として、舞鶴市とウズベキスタンの友好関係発展のための活動や東京五輪舞鶴ホストタウン交流活動、みなと振興活動のほか、ロシア語話者であることを生かし、ロシア語講座やナホトカ市との交流業務に携わりました。舞鶴市の美しい自然と優しい市民の方々に囲まれていたおかげで、短期間で仕事に慣れることができました。

1. スポーツ振興・国際交流・港振興業務

(1) 舞鶴市とウズベキスタンの交流活動

2020東京五輪のウズベキスタンのホストタウンとして登録された舞鶴市の国際交流員として、ウズベキスタンの体育文化スポーツ大臣やオリンピック委員会事務総長等を中心とした事前合宿視察団の受入、舞鶴市代表団のウズベキスタン訪問、ウズベキスタンのレスリング・柔道代表選手団の合宿団の受入、ウズベキスタンにある日本人抑留者資料館館長の受入、文化大臣を中心としたウズベキスタン文化芸術団の受入などに取り組み、関係機関との連絡・調整、各種訪問団のアテンド、翻訳・通訳業務を行いました。

(2) 舞鶴市とリシタン地方の交流活動

舞鶴市とウズベキスタン東部にあるリシタン地方との友好関係発展のための交流活動業務では、フェルガナ州副知事やリシタン地方長官の受入の調整を行うとともに、舞鶴市とフェルガナ州リシタン地方との人材育成交流に関する覚書交換のための準備と翻訳業務を行いました。

(3) クルーズ客船へのおもてなし

クルーズ船対応はこれまでの人生にはない経験で、初めて大きなクルーズ船を見たときはとてもびっくりしました。ふ頭では、日本の浴衣を着て、ロシア語・英語・日本語を使いながらお客様の対応をしました。

2. 市民との交流活動

舞鶴市民にウズベキスタンのことを紹介するため、ウズベキスタン出前講座、ロシア語講座、ウズベキスタン料理講座、ウズベキスタン展示会の開催、ウズベキスタンの情報の発信などを行いました。

(1)ロシア語講座

市民向けにロシア語講座を行いました。ロシア語・ウズベク語の挨拶、ロシア語のアルファベットや文法を勉強するとともに、民族衣装、食事文化、他民族など、ウズベキスタンの文化も紹介し、受講生の方々と意見交換を行いました。受講生の皆さんはとても勉強に熱心でしたので、楽しくて面白い雰囲気での授業を行うことができました。

(2)ウズベキスタン情報の発信

遠く6,000km離れているウズベキスタンは、日本に対して親しみをもった日本びいきな国だといえます。ウズベキスタンのインフラ整備に大きく貢献した日本人抑留者の勤勉な姿のおかげでウズベキスタン人は今でも日本人に対して親近感を持っています。

舞鶴市民のウズベキスタンへの理解を深めるために、日本人抑留者によって建てられた劇場の紹介やウズベキスタン展の開催、舞鶴市とウズベキスタンとの交流の紹介、2020東京五輪ホストタウン交流活動の紹介、広報まいづるにコラムを書くなど様々な情報発信を行ってきました。

(3)出前講座

小中学校や高校での国際理解講座や舞鶴YMCA国際福祉専門学校でのウズベキスタン講座のほか市民団体向けに舞鶴市とウズベキスタンの交流講座などを行いました。これらの出前講座のおかげで、ウズベキスタンの文化や舞鶴市とウズベキスタンの強い絆の歴史を伝えることができました。市民の方々と直接に触れ合うことはとても面白く、楽しい時間を過ごすことができました。

(4)料理教室

南公民館と西支所でウズベキスタン料理教室を行いました。舞鶴市民の方々と一緒にプロフ(炊き込みご飯のような料理)とラグマン(うどんのような料理)を作りながら楽しく日本とウズベキスタンの文化の相違点と共通点について意見を交わしました。参加者の方々から「油をたくさん入れたのにプロフが仕上がったときに全然油っこくないですね」という感想をいただいたことや、皆さんが興味深くレシピを見ながら作り方を覚えようとされていたことは今でも嬉しく思い出すことができます。

(5)大名行列への参加

地域の市議会議員さんの招待で大森神社の大名行列に参加しました。子供の時から侍に憧れていた私は大名行列で侍の役を果たすことができ、とても嬉しかったです。倉梯小学校の体育館で市民の方々と一緒に二か月間練習をしました。当日、浴衣と侍の服を着て行事に参加し、大森神社まで歩いたことはとても良い思い出です。

(6)日本のおばあちゃん

舞鶴市に来てから隣に住んでいたおばあちゃんには大変お世話になりました。毎週のように家に来ていただき、長女のユナにお菓子をくださったり、外に散歩に連れていってくださったり、お宅にも定期的にユナを遊びに呼んでくださいました。また、日本の着物を着せたユナの記念アルバムを作ってくださいました。出会うたびに「アルトゥルどうや？」と話しかけていただき、非常に心強かったです。ユナもこのおばあちゃんが大好きになり、私達家族全員、この“日本のおばあちゃん”のおかげで安心して舞鶴で暮らすことができました。

3. 5年を振り返って

この5年間を通じて、舞鶴市とウズベキスタンの交流に関わらせていただき、国際関係・国際理解、市役所の活動、異文化理解、日本人抑留者の歴史などに深く知識と経験を得ることができました。このような舞鶴市とウズベキスタンの友好関係の発展により、平和と国家同士の絆がより強くなるので、次の世代にも受け継がれてほしいと願っています。

お世話になった皆様のおかげで、本当にあっという間の5年間でした。また、日本のおばあちゃんを始め、舞鶴市民の方々にやさしく受け入れていただいたこと、心から感謝申し上げます。舞鶴市はいつも私の心の中にあり、応援していきたいと思っています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

外務省勤務録

～4年間の派遣を終えて～

みなと振興・国際交流課 足立 健太

2018年4月から22年6月までの4年2ヶ月間、外務省と地方自治体の人事交流事業の一環として同省に派遣。外務本省で2年間の勤務後、中国・大連市にある瀋陽日本国総領事館在大連領事事務所で2年間勤務。海外(中国)と縁もゆかりもなかった私の日本の中枢・霞が関での勤務やコロナ禍での中国生活などの貴重な体験の一端をここで紹介する。

1. 外務省中国・モンゴル第二課での勤務

(1) 外務省の過酷さを知る

2018年4月1日、外務省中国・モンゴル第二課での勤務がスタートした。これまで東京には修学旅行でしか来たことがなかった私は、通勤の地下鉄の中から既に地に足が付いた感覚がなかったことをよく覚えている。執務室に入ると、2週間後に開催を控えた日中ハイレベル経済対話(閣僚級)の準備のほか、省内幹部や官邸への説明やそれに伴う説明資料が昼夜問わず行われており、バタバタ働く人のなかに、ピリッとした雰囲気を感じ、日中外交の第一線にいるのだと改めて感じさせられた。まず、課内で簡単に挨拶をしたのち、直ぐに前任者からの引継ぎが始まった。引継ぎが終わり席に戻ると、数時間のうちに自分のメールボックスが大量に溜まっており、机の上は決裁や作業依頼で埋め尽くされていた。歴代の先輩方から事前に聞いていたが、「これが外務省か」と感じた。

私が配属となった中国モンゴル第二課は、日本の各省庁と中国・モンゴルとの経済連携の橋渡しにより、経済関係を発展させることが主な業務であり、外務省の中でも一・二を争う激務な部署であった。私は中国との「漁業、科学技術・宇宙、航空、地方連携」と台湾に関する業務を担当することになった。市からの派遣だということを手加減はなく、これらの業務のほとんどは自分だけが担当であり、その分野の第一人者にならなければいけないという重責がのしかかる。また、業務は難解だけでなく、スピード感も求められ、出勤してすぐ「30分以内に官房長官会見の発言要領を用意して！」などと求められることもあった。目の前の作業をしているうちに深夜0時を回っていることも多々あったが、少しでも自分が役に立てるように、優秀な上司・同僚についていこうと必死に食らいついているうちに、着任して数カ月間は怒涛のように過ぎ去っていった。

(2) 日中関係の最盛期

私が着任した2018年は、日中平和友好条約締結40周年という節目の年で、2012年の尖閣諸島の国有化により冷え込んでいた日中関係が一気に回復し、非常に重要で多忙な時期であった。日中両国間では、9年ぶりの日中外相相互往来、8年ぶりの中国国务院総理の公式訪日(公賓)、7年ぶりの総理訪中(多数国間会議への出席を除く)など首脳・外相を含むハイレベルでの往来・対話が活発に行われ、それまでの反動のように日中関係の改善の波が押し寄せた。2018年5月、李国克国务院総理が公賓訪日した際には、安倍総理主催晩餐会のオーケストラとの調整や選曲などを担当する機会を早速いただいた。晩餐会は迎賓館(外国の国家元首などが訪日する際に会食や宿泊等の接遇を行う施設)で、経団連会長を始め各界の代表、中国に縁のある有

名人を招待して行われた。大型イベントの成功に向けての外務省の方の働きぶりを間近で目の当たりにして、「ここまで調整するのか」と感心させられた。一人ごとの当日細かな動きが事前に決められ、半日にも及ぶ机上でのシミュレーションを休日にも関係なく、何度も行われた。そのおかげで、晩餐会は無事成功し、同日に行われた日中首脳会談では日中間の協定・覚書が10本も署名され、幅広い分野の経済協力を示すことができた。

その後、何度も大型イベントを担当させていただいたが、2019年6月のG20大阪サミットのフリンジで開催された日中首脳会談にプレス担当として同行させてもらったことは忘れることができない。東京から大阪に出張したのだが、大阪駅を出た瞬間、町中が警察で溢れかえっていた。日本が主催するサミットとしては史上最大規模であり、各国の首脳が多数訪日することもある、全国から3万人を超える警察官が配置されており、スタッフである私たちでさえ、会場に向かうのが困難なほどであった。検問ごとに身分証を見せ、ようやくたどり着いた会場には、既に中国以外の外交団が多数おり、テレビで連日報道されているニュースの中に飛び込んだようであった。私が担当するプレスは、それを取材する日本と中国の記者の調整と現場での誘導であった。しかし、現場に入ると、その業務だけでは終わらなかった。自国のトップである習近平国家主席が参加するのである。中国側からはそれに付度した「エアコンは微風で何度!」、「イヤホンは自前のものを!」など細かな注文が矢継ぎ早に要求され、開始直前まで対応に奔走することになった。すべてに対応できたわけではなかったが、首脳会談の冒頭で安倍総理から習近平国家主席に「来年の桜の咲く頃に国賓としてお迎えしたい」旨の発言を聞いた時は、日中関係の最高潮の現場に立ち会っているという実感で、ジーンと胸が熱くなり、強くやりがいを感じた。



▲G20大阪サミット～日中首脳会談担当者と共に～
(下列でしゃがんでいるのが私)

(3) まだ見ぬ世界へ

外務本省2年間の間に、北京、大連、台北への海外出張の機会に恵まれた。初めての出張は、中国科学技術部の招聘プログラムで各省庁の若手行政官や大学教授など80名で中国の北京・大連の科学技術を視察するというものであった。北京では中関村サイエンスパーク、北京大学、清華大学などの視察や座談交流会に参加した。

中国の科学技術への注力ぶりが感じられたのはもちろんで

あったが、大学生の勤勉ぶりが強く印象に残っている。大学内の図書館を視察した際、我々が数十人でぞろぞろと横切っているにも関わらず、誰一人として机から顔を上げず、勉強に集中していたのだ。我々の方がその雰囲気飲まれて、息がしづらかったと、後で口々に話していた。

その後、北京での日程を終え、大連に移動するため、北京空港の国内線乗り場に向かったのだが、ここで大きなサプライズが起こった。ターミナル内で大連市外事弁公室副主任にお会いしたのだ。我々は面識がなかったのだが、同行していた大学教授が空港内でカラオケ(電話ボックスの中にカラオケがあるイメージ)を見つけ、使い方が分からず困っていたところ、北京へ出張中の副主任が助けてくれたご縁で我々は知り合うことができた。後述するが、大連での2年間一番お世話になった方との奇跡的な出会いであった。

(4)未知のウイルス

2020年1月20日、習近平国家主席の新型コロナウイルス感染症(以下、コロナ)の感染拡大に関する重要指示の発表を受け、中国全土でコロナへの対策が始まった。日本でも一気に注目を集め、1月24日、外務省が中国湖北省の危険レベル3(渡航中止勧告)を発表した。初めは中国だけの出来事だと思っていたし、まさか世界中でパンデミックが起きて、3年以上経った今でも、コロナが蔓延している生活を送ると思っていたが、これがコロナの始まりであった。この緊急事態に総理官邸では対策会議が連日開催された。我々も中国でのコロナの感染状況などの情報収集・分析にあたることになり、総理への報告資料を毎日作成することになった。当時は中国語もあまり分からない中、中国各地の衛生健康委員会のHPと辞書を交互に見ながら必死に資料作成に励んだ。中国側の発表が遅いことで、資料作成が会議直前までかかり、資料を届けに走ったこともあった。

そんな中、都市封鎖された武漢から日本人を退避させるというミッションが舞い込んだ。約700名もの日本人がコロナ蔓延した武漢から帰国できなくなっていたのだ。1月26日夕方、安倍総理からチャーター機での武漢からの退避を実施する旨発表があり、その夜には電話外相会談が行われるなど、退避オペレーションは凄まじいスピードで決まっていた。事務レベルでの調整はチャーター機の発着時間などをめぐり二転三転したが、1月29日～2月17日の内に5便、計828名(うち邦人720名)が無事退避することができた。離着陸の際には、課内で拍手がおき、その時のことは今でも鮮明に思い起こされる。また、チャーター機にはマスクなどの支援物資を載せるだけでなく、現地武漢への応援職員(外務省職員)が同乗していた。応援職員の中には、小さなお子さんがいる方もいたが、日本人の武漢脱出のためと奮い立たせて出発していった。当時、中国ではコロナ禍の武漢の支援に向かう人のことを「逆行者(困難に勇敢に立ち向かう人)」と呼称して英雄化されていたが、応援職員の姿はまさにそのものであった。

(5)外務本省での2年

この2年間は未知の体験ばかりであった。常に物事が動いていて、ニュースになるような内容ばかり。間違いなく、私の人生の中で、特別な時間であった。緊張感やプレッシャーで押しつぶされそうになった場面も多々あったが、無我夢中でやってい

る中で、少しは日中関係の一助になれたと思う。この2年間で私がなんとかやり遂げられたのは、周りの方がどんなに忙しくても、私が気軽に相談しやすい環境を作ってくださったおかげである。日中外交の第一線で、外務省の仲間たちと日中関係のため苦楽を共にした経験は、私にとってかけがえのない財産となった。

2. 在瀋陽日本国総領事館在大連事務所での勤務

(1)いざ大連へ

2020年6月11日、妻子と共に成田空港から中国遼寧省大連市の周水子空港に向かった。コロナの影響で中国大使館が査証発行をしていなかったため、当初の赴任予定日から1カ月近く遅れての赴任であった。当時、中国のコロナは落ち着いていると報道されていたが、一部では過小報告されているとの見方の報道もあり、10カ月の息子がいた私は不安を抱いたまま渡航した。

飛行機が空港に到着すると、全身防護服を着た中国人が機内に入ってきて、順番に人を降ろし、PCR検査や健康チェックを行ったのちに、それぞれホテルにバスで個別に輸送された。中国に着いたが、全く外に出られぬまま、2週間の隔離生活が始まった。システムチェックで自分の意志は全く関係なかった。部屋のドアを開けていいのは、食料などを受け取る時や定期的なPCR検査の時のみ、一日の楽しみは食事だけだった。そんな過酷な状況の中で、前任者からの差し入れの日本料理を食べ、大連でも日本と変わらぬ味が食べられるとほっとしたのをよく覚えている。



▲PCR検査を受ける息子

(2)大連領事事務所での業務

大連市は、中国でも有数の日本語人材が多い都市であり、進出日系企業数約1,800社、長期在留邦人も約3,750人と多くの日本人が生活している。主なホテルやレストラン等では日本語が通じる場所が多くあり、日本人にとっては住みやすい都市である。舞鶴市とは1982年に友好都市を締結して以降、教育、文化、スポーツ、水道技術など幅広い分野で長年にわたり友好交流を続けている。大連領事事務所には、事務所の設立当初から26年間、舞鶴市職員が外向しており私で12代目になる。

大連領事事務所は、日本人、中国人職員合わせて約30名が勤務しており、大連市との交渉や連絡、日本の広報文化活動、邦人保護や外国人への査証発給などを行っている。私は領事班(旅券や査証を担当)の配属になり、地方交流業務を兼務することになった。着任当時、コロナの影響で人道的配慮が必要な案件

その他国際交流

など特段の事情がなければ新規査証の申請ができない状況であり、前年 16 万 8 千件あった査証は 2020 年には 2 万 1 千件に激減した。それでも日本に行きたい中国人は多くおり、自分は特段の事情にあたるので日本に行きたいという要望が日々絶えることはなかった。しかし、当時の申請のハードルは相当高く、ほとんどの方の申請は受け付けることができなかった。悲痛な叫びを訴える方の申請を断ることは非常に心苦しかったが、日本人の安全のためと思い申請を断る毎日が続いた。

また、私が大連在任中、大連市内でコロナの集団感染が 5 回起きた。当時、中国では「清零（ゼロコロナ政策）」がとられており、日本では考えられないが、1 人でもコロナ感染者が出ると、そのビルを封鎖し、徹底消毒が行われ、第二次濃厚接触者（濃厚接触者の濃厚接触者）まで隔離が行われた。さらに感染者数が増えてくると、市内全域での行動制限、全市民対象の PCR 検査が行われた。大連市人民政府が日々発表する新たな行動規制などを在留邦人に対して、昼夜問わず迅速に情報共有（領事メール）を行うことも業務であった。

コロナの影響により、例年行われる「大連アカシア祭り」、「日本商品大連地区巡回展」、「中日（大連）博覧会」などの大型イベントは、規模を縮小されたり、中止を余儀なくされたり、大連での様々なイベントを満身に体験できなかったことは残念であったが、コロナ禍での中国特有の施策や行動を肌で体験できたことは非常に有意義であった。



▲中日（大連）博覧会で日本文化の着物を紹介
～大連テレビのインタビュー映像～

（３）コロナ禍の大連生活

ゼロコロナ政策が取られていた中国では日常生活でもショッピングモールなどの入口では健康コード（位置情報でコロナ発生地に入っていないか証明するアプリ）の提示を求められた。コロナが発生すれば、前述のとおり行動制限や全市民対象の PCR 検査が行われた。私も 2 年間で 4 回の隔離生活と数十回の PCR 検査を体験した。しかし、このような徹底した施策のおかげで、大連でコロナ発生した時期以外は日本のような自粛ムードは全くなく、隔離があるため日本に帰れないこと以外は普通の生活を過ごすことができた。オミクロン株が流行するまでの 1 年間ほどは中国国内のコロナの状況は非常に安定しており、私個人としては、その時までには中国の厳しいコロナ施策は成功していたと言ってもよいと思う。

また、中国国内であれば旅行もでき、上海、青島、西安、敦煌、広州、成都など 14 都市を巡った。「中国という国は金満であるが、国民は貧乏である」と聞いていたが、都会から田舎まで旅行することで、大連市内だけでは見ることができない、中国国内の貧富の格差を目の当たりにすることができた。



▲成都市への旅行～パンダ基地にて～

（４）大連人との交流

私が大連駐在中はずっとコロナの状況であったが、多くの大連人の友人に恵まれた。中国の友人との飲み会はとにかく激しかった。昼間から 50 度以上ある白酒を何十杯も乾杯（文字通り飲み干す）し、何度もノックアウトさせられた。これが彼らの熱烈歓迎の意思表示であり、もてなし方である。彼らには中国の飲み会での作法から中国文化まで様々なことを一から教えてもらい、帰任時には私も立派な大連人になれていたと思う。

大連滞在期間中、一番お世話になったのが、前述した大連市人民政府外事弁公室副主任である。彼女のお孫さんが私の息子と同年であったことから、いちご狩り、海水浴、温泉旅行など様々なところに遊びに連れて行ってもらった。中国の大晦日には、実家に招いていただき、一緒に餃子づくりをしたり、邪気払いの爆竹をならしたりした。私がパラリンピックの応援出張で日本に単独帰国した際には、私の家族を心配して何度も遊びに連れ出してもらい、家族のサポートまでしてもらった。彼女のおかげで大連生活を家族で過ごせたという過言ではなく、感謝してもしきれない。

（５）大連での勤務を終えて

正直に言うと、中国に行く前の私は中国のことを良く思っていない日本人の一人であった。百聞は一見に如かずと言われるが、大連で 2 年間生活をしてみて、私のイメージは大きく変わった。たしかに、中国は共産党による一党支配であり、政府からの行動制限など日本人にとっては信じられないことが当たり前に起こる。大連でも、中国人との考え方や価値観が異なることも多々あった。しかし、少なくとも私が出会った中国人は住む場所や年齢によって考え方や価値観こそ違えど、非常に情に厚く愉快な方ばかりであり、私の狭い世界観を広げてくれた。

また、コロナで日本になかなか帰れないという特殊な状況の中で、日本人社会はとても連帯感があった。おかげで様々な業種の日本人にも仲良くしてもらい、人生の先輩方のこれまでの経験を多く教えてもらった。中国人も日本人も、多くの方に公的というより私的に仲良くしてもらったことで、私の大連生活は実りあるものになった。

外務省本省と大連領事事務所の 4 年間の勤務を振り返ると、身体的にも精神的にも、辛いこともたくさんあったが、本当に人に恵まれていたおかげで、結果的には楽しく全うできたと思う。東京と大連で支えてくれたすべての方への感謝を持ちつつ、貴重な 4 年間の経験を活かして、今後、大連市との友好のため、そして舞鶴市の発展のため尽力していきたい。

各種ホームページの紹介

姉妹都市・友好都市のホームページや海外安全情報などのホームページを紹介します。
いろいろな情報の検索に便利ですので、ぜひご活用ください。

<https://www.nakhodka-city.ru/>

ナホトカ市のホームページです。ナホトカ市の歴史・教育・産業・経済自由区や観光案内などを検索することができます。(ロシア語・一部英語版あり)

<https://www.dl.gov.cn/>

大連市のホームページです。大連市の概要・投資ガイド・観光案内などについて検索することができます。(中国語・英語・日本語版等)

<https://www.portsmouth.gov.uk/>

ポーツマス市のホームページです。観光案内・市役所の仕事などについて検索することができます。(英語版)

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/>

外務省のホームページです。在外公館のニュースや安全情報を検索できます。(日本語・英語版等)

<https://www.city.maizuru.kyoto.jp/>

舞鶴市のホームページです。姉妹・友好都市との交流や市政全般の情報を検索することができます。(多言語自動翻訳システムを導入)

<http://www.npomia.com/>

NPO法人舞鶴国際交流協会のホームページです。在住外国籍市民との交流や支援などを中心に活動を展開しています。

<https://www.port.maizuru.kyoto.jp/>

一般社団法人京都舞鶴港振興会のホームページです。京都舞鶴港の概要や定期航路、クルーズ客船、港湾施設等についての情報が掲載されています。



国際交流 2022

舞鶴市国際交流報告書

2023年4月 印刷

発行 舞鶴市役所 産業振興部 産業創造室 みなと振興・国際交流課

〒625-8555 京都府舞鶴市字北吸 1044

電話0773-66-1037

印刷 株式会社 モトキ
